お祖師さまをお訪ねする物語 第6回

高祖日蓮大士ご降誕
800年慶讃

前回までは、お祖師さま（高祖日蓮大士）の近畿地方のご足跡（お訪ねになられた場所）をお話したけど、今回は、お祖師さまがご晩年（年老いてからの時期）の八年四ヵ月を過ごされた所、身延山（山梨県）の「御草庵（簡単なつくりの住まい）」についてお話するね。

身延山 ①

文永十一年（一二七四）五月十七日、お祖師さまは五十三歳の時、ご信者の南部実長さんの招待（招き）によって、甲斐国（山梨県）の「身延山」にやって来られたんだ。

この「身延山」は、南部実長さんの領地（持っている土地）だったんだよ。お祖師さまは、南部さん宅（家）にしばらく滞在（ある期間そこにとどまること）され、その後、山のふもとの西谷という所に「草庵」を建てられ、そこに住まわれるようになったんだね。

身延山はとても険しい山の中にあったから、生活に必要な物がなかなか手に入らなかったんだ。そこで、南部実長さんや鎌倉（神奈川県）、下総（千葉県）、駿河（静岡県）などの各方面のご信者方が、お祖師さまのいらっしゃる身延山の草庵まで、生活に必要な物を運んでくれたんだね。

御草庵跡
石造の玉垣（聖域を囲む垣）に囲まれた所が、お祖師さまが住まわれた草庵の跡。十間四面の草庵跡はそのまま護持せられている

身延のお祖師さまのもとに各地のご信者よりご供養が届けられた

ご信者方が届けてくれたお供養（仏や神、僧侶に供える飲食物やその他の物）の品々は、一緒にいたお弟子やご信者方の皆で分け合っていただかれていたんだ。

でも、その人数は少ない時でも四十人、多い時では六十人程と、とても大勢であったため、お供養の量としては決して充分なものではなかっただろうね。

また、身延山の冬は、雪が二、三メートルも降り積もり、鍋にたまった水やお弟子たちのヒゲも凍ってしまうんだよ。冬場は地元の猟師（鳥やイノシシやシカなどを捕らえる人）さえも、山には近寄れないというから本当に寒さの厳しい所だったんだ。

こんな風にお祖師さまの身延山での生活は、空腹と厳しい寒さとの戦いでもあったんだね。

弘安三年（一二八〇）十二月、お祖師さまが五十九歳の時、これまで住まわれていた草庵にかわり、十間四面（一面およそ十八メートルの正方形）のお堂の工事がはじまったんだよ。

翌年の弘安四年（一二八一）十一月二十四日、新しいお堂が完成し、お祖師さまはこのお堂を「身延山妙法華院久遠寺」と名付けられたんだね。

この身延山で、お祖師さまは、五十三歳から六十一歳までのおよそ八年四ヵ月の間、御題目口唱（御題目をお唱えすること）と、お弟子やご信者方の教導（教えみちびくこと）にあたられたんだ。

そして、多くの御本尊や御書（書き物、手紙など）も、この身延山でご執筆（文字を書くこと）されたんだね。

現在の「身延山久遠寺（正式には身延山妙法華院久遠寺）」の本堂（日蓮宗総本山）
お祖師さまがご遷化された後、約200年後の文明７年（1475）、手狭になった西谷の地から現在の地に身延山久遠寺は移転された

「御草庵跡」の正面
文永11年（1274）の一番最初の草庵は、４年を経て大破してしまったので建治３年（1277）に修復、さらに４年後の弘安４年（1281）に改築された。この時に建替えられた草庵（お堂）に、お祖師さまは「身延山妙法華院久遠寺」と名付けられた